

石川県におけるパレコウイルスA感染症の実態解明に関する研究

健康・食品安全科学部ウイルスグループ

はじめに

パレコウイルスA (PeV-A) は、主に乳幼児に上気道炎、胃腸炎等をきたす病原体として知られています。複数の遺伝子型があり、このうちPeV-A3は、新生児や生後3か月未満の早期乳児に敗血症や脳炎等の重篤な症状を引き起こすことから注目されていますが、医療機関での検査診断が難しいため、疫学や実態には不明な点が多いです。そこで、PeV-A感染症の実態解明をすることを目的とし、研究1～3を実施しました。

研究1：小児（6歳以下）におけるPeV-A感染症の実態把握

目的：重症化しやすい小児のPeV-A感染症疑い症例の原因ウイルスの解明

<方法>

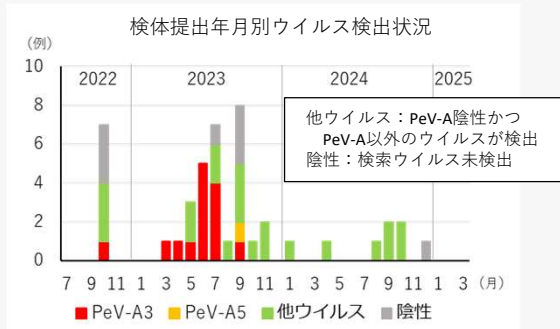
3つの医療機関において、発熱を認め、入院を要し、協力が得られたPeV-A感染症を疑う6歳以下の患者を対象に、咽頭ぬぐい液等の検査材料から以下のウイルスを検索しました。

〔 検索対象ウイルス：PeV-A、エンテロウイルス属 (EV)、アデノウイルス、単純ヘルペスウイルス、
コロナウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス、
パラインフルエンザウイルス、ヒトヘルペスウイルス (6A、6B、7) 〕

<結果>

収集した検体数：44例 186検体（期間：令和4年7月～令和7年3月）

(1) 検体提出年月別ウイルス検出状況

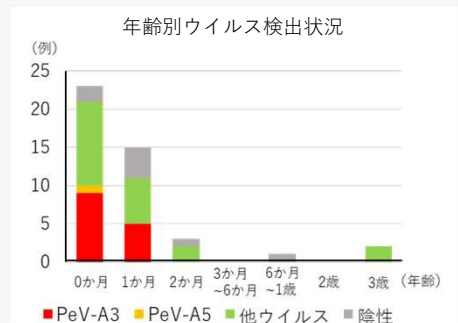


- 全44例中15例からPeV-A検出 (34.1%)
うち14例(93.3%)が2023年検出
- PeV-A遺伝子型内訳：PeV-A3…14例
PeV-A5…1例

ポリマーゼ領域の系統樹解析の結果、
PeV-A3との組み換えウイルスである可能性が示唆

➡ **PeV-A3：2023年に市中での流行が示唆**

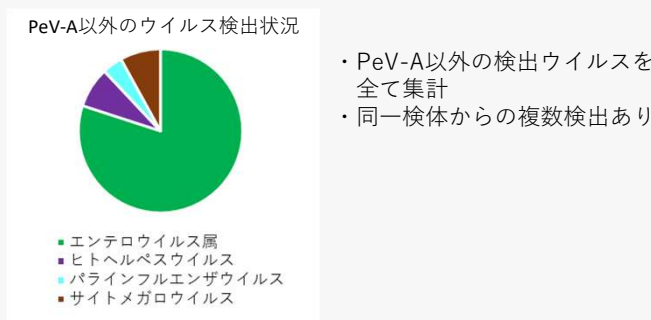
(2) 年齢別ウイルス検出状況



- PeV-A陽性の15事例は全て生後1か月以内
(うち10例が新生児)

➡ **PeV-A：新生児・乳児からの検出が多い**

(3) PeV-A以外のウイルス検出状況



- PeV-A以外の検出ウイルスを
全て集計
- 同一検体からの複数検出あり

- PeV-A以外の全検出ウイルスのうち80%が
エンテロウイルス属

➡ **PeV-A陰性事例からはエンテロウイルス属
が多く検出された**

(4) PeV-A陽性事例における主な症状

PeV-A陽性事例における主な症状 (上位5つ)

症状	PeV-A陽性 (15例)※1	EV陽性 (18例)※2	陰性 (11例)※3
1 39℃以上の発熱	66.7%	55.6%	27.3%
2 網状チアノーゼ	33.3%	27.8%	27.3%
3 末梢冷感	20.0%	11.1%	9.1%
4 発疹	20.0%	38.9%	18.2%
5 胃腸炎	20.0%	27.8%	18.2%

※1 EV重複感染1事例含む

EV：エンテロウイルス属

※2 PeV-A陰性、その他ウイルス重複感染2事例含む

※3 PeV-A陰性、EV陰性

➡ **PeV-A検出事例とエンテロウイルス属検出
事例の症状には大きな差が見られなかった**

